

目標達成計画

作成日：平成 27年 12月 12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		【地域の子ども達との関係】 地域の子ども達、特に伊勢田保育園年長組さんとは毎月、散歩や遊びといった交流を行なって5年目となり、卒園した園児が放課後に遊びに来るという関係性も築けている。しかし、職員の意識と対応がこれに追い付いていない。交流(交流日)には全職員が遊びのアイデアを出し合い自主的に関われているのに、卒園後の子どもとの関係作りは自分達の仕事ではないという風に玄関で断ってしまうこともあり残念である。	放課後に子どもが遊びに来ることが、職員のもっていきよう一つで、ご入居者の楽しみの時間になりうるという意識をもつ。子ども達が将来「GHが放課後の遊び場だった」等と語ってくれたらどんなにか素晴らしいだろう。もちろん忙しくて対応できない時もある。そんな時は、次に繋げる断り方に工夫したり、子ども達だけでも、ご入居者と上手に関わる方法を普段から伝える等の働きかけが出来るようになりたい。	管理者だけがあれこれと欲求しても上手くはいかない。管理者の想いや交流の意味を理解してもらえらるまで伝えていく。職員全員に理解してもらうには時間がかかるだろうが、理解者が増えれば自然と、前向きな雰囲気となっていくと考える。	24ヶ月
2		【家族との関係】 年4回の家族の会行事を企画し、日頃の様子を毎月お手紙にてお知らせする等々、常に、ご家族との関係作りの工夫と配慮は欠かさないようにしている。結果、ご家族は施設に好意的に接して下さり、良好な信頼関係を築けていると感じる。ただ、認知症が進行する程に面会の足が遠のいて行くご家族に、何かもう一歩踏み込んだことが出来ないかと感じており、課題としたい。	現在の家族の会は施設主体の運営となっているため、ご家族主体の運営になってほしい。認知症が進行した親と一緒に過ごす事が出来ないのなら、直接的でなく、間接的な関わりでも良いので、家族発達の活躍の場をつくりたい。	こちらも時間はかかるであろうが、常に現場の思いを発信し続け、協力者を増やしていく。	24ヶ月
3					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。